

食育事業取組報告書(さわやかルーム)

食育活動区分	(該当するものを口で囲む) 育てる ・ 作る ・ 食べる ・ 返す	実施年月日	令和4年4月20日(水) 5月11日(水) 5月25日(水) 7月20日(水) 6月22日(水) 9月26日(水)
教科名	生活(自立活動)	指導者	○新発田さわやかルーム指導員 長谷川恵 椿朋子 古賀理恵 ○板山地区食農班の皆さん ○JA北越後女性部の皆さん ○市農業サポートセンター職員
単元名	農業体験から、食育を考えよう		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元農家での農業体験、ルーム畑での野菜栽培、調理実習などを通して児童生徒の「食」への関心を高めることができる。 ・ 農業従事者及び、関係の方々と触れ合うことを通して、農業の大切さを知ったり、他者との交流の機会とすることができる。 ・ 自分達で育てた野菜を使って調理実習をすることを通して、収穫の喜びや調理する楽しさを実感し、「食」に関心を高くすることができる。 		
児童・生徒の活動		支援・指導上の留意点	
<p><農業体験></p> <p>1 ジャガイモ収穫体験 <7月20日(水)></p> <p>></p> <p>1 玉ねぎ収穫体験 <6月22日(水)></p> <p>2 さつまいも収穫体験 <10月 5日(水)></p> <p>3 牛舎見学体験 <11月 9日(水)></p> <p><食を作る体験></p> <p>4 調理実習 <9月26日(月)></p>		<p>○ 苗の植え付け(4月20日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 板山食農班の方々にご指導いただき、30cm間隔で植える。 ・ 水はやらない。 <p>○ 草取り(5月11日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗を傷つけないように、根っこを残さないように草を取る。 <p>○ 草取りと肥料やり(5月25日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗を傷つけないように、根っこを残さないように草を取る。 ・ 直接、苗にかからないように、肥料を蒔く。 <p>○ 収穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イモを傷つけないように周りの土から掘って収穫する。 ・ 残さないようにすべて収穫し、日に当てないように保存する。 <p>○ 玉ねぎの栽培についての話を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4~5月頃に植え2週間以上前に堆肥と元肥を施して畝を作る。 ・ 茎の白い部分が出るように10~15cmくらいの間隔で植える。 ・ 追肥やこまめな草取りに留意して育てる。 <p>○ 収穫体験をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 茎が倒れた段階で収穫の時期だと確認し、引き抜いて収穫を体験した。 ・ 収穫後は、一定の期間乾燥させることが大切だと学んだ。 <p>○ さつまいもの栽培についての話を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肥料を施し、畝をつくって、苗を斜めに植えることに気を付けて植える。 ・ 水は、あまり多く、整えてやりすぎない。 <p>○ 収穫体験をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畝の外側、地中の生え方に注意して、いもを見つけて収穫をする。 <p>○ 牛舎の見学を実際に行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生面に注意し、乳牛を刺激しないよう見学するなど指示を守る。 ・ 菅谷の中野牧場で見学し、乳牛の管理について実際に見た。 <p>○ 酪農についての講話で研修を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳牛の体のしくみ、育て方、牛乳が届くまでの生産工程等を聞く。 ・ 紙芝居や拡大図録等を使って、分かりやすく説明してくれた。 ・ 乳牛への愛情の注ぎ方や「いのち」の話をきくことができた。 <p>○ スプレーアートの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄の飼料袋にデザインマークや牛や自然をモチーフにして描いた。 <p>○ 活動後、感謝の気持ちを込めてお礼の手紙を書いて届ける。</p> <p>○ 収穫したジャガイモを使ってカレーライスを調理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜を洗い、切る。 ・ 煮込んで、ルーを入れてカレーを完成させる。 	
成果と課題	<p>○ コロナ禍で、板山食農班の皆さん、JA北越後女性部の方々、新発田市農業サポートセンター職員の方との交流会は思うようにはいかなかったが、それでもご協力により、収穫の喜びを味わえた。</p> <p>○ 子ども達にとって、実際に自分達で育てた野菜で料理し、おいしくいただけただけことは、生きる力を考えることができ、よい機会となった。</p>		
家庭・地域の連携	<p>○ 旧軍野小施設校舎において、板山地区食農班の皆さんにお世話になり、畑作りからジャガイモ栽培・収穫を体験することができた。</p> <p>○ 年3回の交流会では農家の方のご厚意で、さつまいも収穫、玉ねぎ収穫、牛舎体験など、さまざまな体験をさせて頂いた。来年度も子ども達に食に関わる豊富な体験が実現できるよう、関係機関との連携を深めていきたい。</p> <p>○ 来年度は、小煮物作りをぜひ行えるように考えたい。新発田市食生活改善推進委員協議会協力の『しばたのおかず』を参考にし、具材の数や種類などの工夫をして子ども達の食への創意を高めていきたい。</p>		

